



「知識と思考」

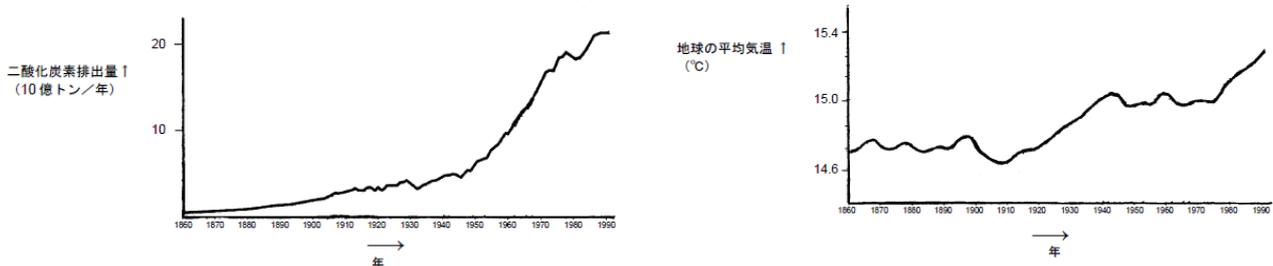
校長 吉田 亘

今年の6月7日に「5年後をめどにセンター試験を廃し、年に複数回受検できる『到達度テスト』を導入し、それを入学選抜に活用する」という方針が示されました。これは、センター試験ではかることの難しい、読解力や表現力など総合的な能力を重視する大学入試への動きです。知識を暗記するだけの勉強では駄目だということです。

この流れは、国際学力調査である「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）」で、日本の生徒は、知識を組み合わせる論理的に考えて説明することが苦手だという結果が出たことを受けてのことです。論理的な思考力は生きていく上で大切な能力です。特に国際社会の中で活躍していくときには必須といえるでしょう。これまで以上にその能力を身につけていくために、暗記中心の受動的な学習を変えることが強く求められるようになってきたのです。

次の問題は、2006年実施の高校生（15歳）を対象としたPISAの問題の一つです。

太郎さんが、地球の平均気温と二酸化炭素排出量との間にどのような関係があるか興味をもち、図書館で次のような二つのグラフを見つけました。



問1 太郎さんは、この二つのグラフから、地球の平均気温が上昇したのは二酸化炭素排出量が増加したためであるという結論を出しました。太郎さんの結論は、グラフのどのようなことを根拠にしていますか。

問2 花子さんという別の生徒は、太郎さんの結論に反対しています。花さんは二つのグラフを比べて、グラフの一部に太郎さんの結論に反する部分があると言っています。グラフの中で太郎さんの結論に反する部分を一つ示し、それについて説明してください。

問3

どうですか。もちろん、「グラフの種類」「グラフの見方」「平均気温」「二酸化炭素」や単位（時間、量、温度）についての基礎的な知識は必要ですが、それを組み合わせ、自分で考えることが求められています。

これは、「科学的リテラシー」という分野の問題ですが、一つの事象や課題に対して、多面的な見方や様々なアプローチが存在するという事は、科学（理科）だけでなく、全ての教科、科目に共通することです。思考するためには知識が必要ですから、それをないがしろにすることはできませんが、多面的、多角的に、自分なりに「考える」ことが重要です。知識と思考することは、いわば車の両輪のようなものなのです。

これから夏休みになります。時間は十分にあるはずですが。部活や読書とともに学習計画をしっかりと立て、「自分で考えること」を意識した勉強に取り組んでください。



生徒のみなさんへ その2

副校長 野村 悟

反抗心から恩師やお寺のみんなを裏切るように薬王院から脱走。一時は髪まで染めていた私が、僧侶として生きることを決めたのは、私を気にかけてたまま亡くなった恩師の無念の想いがつきささったから。今は、出戻りの私を受け入れてくれたお寺のご恩に報いるために、奉公しています。僧侶とはいえ私も弱い人間ですが、修行により自分と向き合っていくことで、つらいことも乗り越えていけると信じています。

以下の文章は、帰宅の際いつも使う乗換駅ホームで偶然に見た広告に、掲載されていた一文です。電車を待っていた際、ふと視線をあげるとその文字と画像に映し出された著者の姿が目飛び込んできたのです。

「昔、茶髪。今、坊主。—『坊さんにはなりたくない!』

(佐藤秀仁 高尾山薬王院 修行僧)」

……弱い自分と向き合う、ということ、その一文に目が引き付けられたのです。

人は誰しも弱点を持っています。その弱点を抱えながら、日々の時間を過ごしていると言っても過言ではないでしょう。もちろん、他人にその弱さを見せるか見せないかという表現方法の違いは、人によって差があるのですが。私自身もそうです、自分の中に多くの弱さを抱えています。

その弱い側面の自分と向き合うとは、今の置かれた環境の中で、自分の持ちうる力を尽くすことと解釈できます。つまり、今の目の前のことに専念するということと読み替えても良いでしょう。確かに、現代の世の中に生きる私たちは、様々なことを考えなければなりません。それは、学校のことであったり、日々の授業のことであったり、将来のことであったり、友人であったり、家族のことであったり……。

かつて、高校生だった私は、自分の好きなことしか取り組むことしかできませんでした。

当時は自分の弱いところ、嫌だと感じる部分からは、敢えて目を背けていたと思います。しかし、その負債は、後になってやってきました。そのため、人生においてひどく遠回りを余儀なくされたのです。今、見方によれば、その回り道は役立っているともいえない訳ではないのですが。

未知なものに対して、人は不安を抱きます。しかしそれは、目の前のことに先心することにより、やがてはそれが自分自身への自信に繋がっていくと考えています。

著名な米国の心理学者C. ロジャーズの弟子E. ジェンドリンは「個人は内面的有機体的な感情や感覚と照合し、言語的行動的に反応させることによりその過程を推進させている」と主張しています。つまり、自分と向き合うこと、そのことが将来に今の自分を変容させ、より望ましい自分へと推進させていく素地や基盤となるのだと思います。

生徒のみなさんには、この夏にぜひとも今の自分自身と向き合ったいと思っています。その中でも特に、自分の中の弱い部分と向き合うことを意識する……日々の生活の中では、なかなかできないことが、長期の休業中には可能だと思うからです。

直面する問題から逃げても、それは必ずまた巡ってきます。逃げたり目を背けるよりは、今、対峙することが人を成長させることに繋がるのだと信じています。

そして、もう少し付け加えるならば、その一人ひとりの弱さを認め合い、それぞれが補完しあえるならば、今の世の中はもっと過ごしやすくなるのだと思います。

その過ごしやすい世の中を、未来の子供たちに委ねたいと考えている自分もいるのです。

(PTAの会報誌に記したものを大幅に加筆、修正してあります。)

田高進路プロジェクトから

進路指導部 谷岡 信幸

6月20日に大学の先生方をお招きして、出張模擬講義が実施されました。これは「田高進路プロジェクト プレカレッジプログラム」の1つで、2年生全員を対象としています。「大学とはどのようなところか」「何をどのように学ぶのか」などを理解することをねらいとしています。参加大学・テーマ

は次の通りです。

- ①東京女子大学：竹内先生 「高校生のための平和学入門—高校生にできること」
- ②早稲田大学：小林先生 「地域で学び、世界で学ぶ」
- ③清泉女子大学：姫野先生 「室町時代の流行歌」
- ④明治学院大学：渡辺先生 「三色ボールペンで読むガリバー旅行記と税金」
- ⑤専修大学：石原先生 「お金って何？」
- ⑥駒澤大学：小本先生 「コンビニ経営のしくみ」
- ⑦東京都市大学：伊東先生 「エンジンを通して環境とエネルギーを考える」
- ⑧日本大学：長谷部先生 「理工がつくる・土木がつくる未来の日本」
- ⑨芝浦工業大学：幡野先生 「ドラえものの不思議道具から学ぶ化学と生物の世界」

高校の授業よりも高度な講義内容ではありましたが、生徒はそれぞれ自分の興味のある講座を選択し、熱心に大学の先生の講義に聴き入っていました。世の中には色々な学問があるということを学ぶことができたと思います。

7～8月は多くの大学・短大・専門学校でオープンキャンパス(説明会)が行われます。上級学校研究の良い機会です。是非参加しましょう。

これらの経験をきっかけに、真剣に大学受験について考えるとともに、家庭学習時間を十分に確保してもらいたいと思います。自分が本当に行きたい大学・短大・専門学校はどこかを考え、そこに行くことができたなら、本当に楽しい学校生活が待っています。

田高生としての誇りを持って

生活指導部 荻原 秀明

田園調布高等学校は、創立64年を迎えます。この間に、君たちの多くの先輩が卒業しています。そして、現在ある田高は、歴史のひとつひとつが礎となり「伝統」とか「名声」とか言われているわけです。また、君たち自身も田高の歴史を築いていることになります。

では、君たちが築いている歴史は、田高にとってプラスですか？マイナスですか？

このことをいつも考えながら行動している人も多くいるはずですが、中には何も考えていない人もいますでしょうか。

1. 自分が田高生である認識があるか。
2. 校外で知らない人から学校名を聞かれて校名が言えるか。
3. ひとりひとりの行動が、「伝統」とか「名声」を汚していないか。

田高を愛し、クラスやクラブ活動を愛し、友達を愛し・・・と、田高を自分の中心に置いて生活を見直してみましょ。今までの自分では、感じなかったことや見えてこなかったことが発見できるかもしれません。

もうすぐ夏休みです。是非、田高の「伝統」「名声」がどのようにして築かれてきたのかを深く考え、確認したうえで、行動してください。

田高生としての誇りを持ち、夏休みを有意義に過ごして欲しいと思います。夏休みを有意義に過ごす目標として、勉強やぼろにあ祭の準備、クラブ活動、社会的貢献などをあげてみてはどうでしょうか。君たちの活動に期待しています。

1 学年より 1 学期を振り返って

1 学年担任 有馬 聡

「さきはへよ」第1号の発行のあと、6月8日には体育祭、17日には芸術鑑賞教室、21日には宿泊防災訓練と大きな行事が続きました。

体育祭ではその運営のために、体育祭実行委員をはじめとして、多くの1年生がいろいろな場面でさまざまな役割を果たしました。また、各クラス、お揃いのクラスTシャツを作り、昼休みや放課後の練習にも熱心に取り組んでいました。当日は天候にも恵まれ、勝ちたいという思いを前面に出して、しか

し楽しそうに、そして元気に競い合っていました。またエキシビションに参加した有志諸君の、楽しそうに踊っている姿も印象的でした。

21日から翌日にかけての宿泊防災訓練の際には、短縮時程ではあるものの6時間の普段どおりの授業のあと、田園調布消防署の方や警察署の方の講話をしっかりと聴き、また救命救急の実技講習にも真剣に取り組んでいました。翌朝のクラス代表による発表も立派なものでした。消灯時間を過ぎてもなかなか静かにならず、注意された者も少なからずいましたが、毛布を敷いただけの教室で一晩を一緒に過ごしたことによって、さらにクラスの団結力が強くなったのではないかと思います。

9月には「ぼろにあ祭」があります。1年生にとっては初めての文化祭です。楽しみにしている生徒諸君も多いようですが、準備は結構大変だと思います。体育祭や防災訓練で培ったクラスの団結力を、ぜひ「ぼろにあ祭」で活かし、成功させてほしいと思っております。

2 学年より 高校 2 年生の夏休み

2 学年担任 荒井 章子

高校 2 年生の夏休みがやって来ます。来年の夏は「受験生」ですので、高校の夏「休み」は今年が最後です。

夏休みにやっておくべきことは何でしょうか。

○オープンキャンパスに行く→1 学期は、「総合」の時間等を使って、進路学習を進めてきました。6 月 20 日 (木) には大学の出張講義があり、大学の先生方の講義を拝聴しました。また、6 月 27 日 (木) の総合学習では、自分の学びたい学問分野を探し、それが学べる大学・学部・学科等を調べる学習をしました。それをもとに、7 月 8 日 (月) の模擬試験では初めて「志望校」を 4 校記入しました。夏休みには、多くの学校でオープンキャンパスが行われます。是非、実際に複数の学校に足を運び、自分の目で見て、比較研究してほしいと思います。2 年生の秋には 3 年次選択科目の希望調査があります。その時になって慌てずにすむように、受験科目も調べておきましょう。

○志望校との学力的距離を縮める学習→あこがれの学校を自分の志望校にするために、計画的な学習を。これまでの学習で、苦手な科目、分野がある人は、夏休みのうちに補っておきましょう。

○奉仕ポイント取得→校外での奉仕活動のポイントがまだ 20 ポイントに達していない生徒が、かなりの人数います。1・2 年次で合計 20 ポイント取得しないと 3 年生に進級することができません。日頃学校の授業のある期間は、なかなか奉仕活動をする余裕がありませんので、この夏休み中に計画的にポイントを取得して下さい。

○修学旅行に関する学習→長崎修学旅行の事前学習の 1 つとして、7 月 17 日 (水) には「長崎を知る講演会」が行われ、長崎に関する講話を聴くことになっています。これを機に、夏休みには、是非、長崎に関する本、資料等を読んで、長崎の歴史・文化についての知識を深めましょう。

3 学年より 体育祭を終えて

3 学年担任 氣田 隆司

始業式後の学年集会でこんな話をしました。「体育祭を盛り上げるのは 3 年生です、ぜひ皆さんの力を貸してください!」。こんな始まり方をした今年の体育祭、各クラスの体育祭実行委員 12 名の他に体育祭をサポートしてくれる有志の仲間が 27 名集まりました。

1・2 年生を引っ張り競技練習やエキシビション練習に熱心に打ち込む姿、そして係の役割を積極的にこなしていく姿、体育祭後の校内清掃に取り組む姿、リーダーとして逞しく成長した皆さんのいろいろな姿を見ることができ感激しました。私が経験した過去 6 度の田高体育祭において、こんなに競技の練習を一生懸命やった学年はありません。あまりに夢中になりすぎて、多くの人が授業に遅刻し、その結果昼休みの練習が禁止になった時の皆さんの悲しそうな表情が今でも忘れられません (笑)。それぞれが精一杯走り、精一杯仲間に声援をおくり、そして涙を流した。高校生活最高の素敵な思い出ができたことでしょう。

後輩に田高体育祭の良き伝統を引き継いでくれた皆さんに感謝します。本当にありがとう。